

## 3-27 中学校（圏域：地域・地区）

### 3-27-1 施設再編の方針

<b>対象施設</b>
山の手中学校、朝日中学校、青山中学校、浜脇中学校、北部中学校、中部中学校、東山中学校、鶴見台中学校
<b>施設再編の方針</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 学校施設は、総量が大きく、老朽化しているため、公共施設マネジメントにおけるコスト削減への影響が大きいと見込まれるため、少子化が進行する将来予測を踏まえ、少人数学級・特別支援学級等、適正な教育環境を確保しつつ、統廃合などの適正配置を進めます。</li><li>➤ 山の手・浜脇中学校の統合中学校は、西小学校跡地に整備予定であり、現中学校跡地については、市の財政状況を考慮し、最適な有効活用策を早急に検討します。</li><li>➤ 短期的には、児童数減により生じた空き教室を活用するとともに、コミュニティ・スクールの理念に基づき、地域にある施設との複合化をはかります。</li><li>➤ 中学校は、比較的規模が大きく、改修工事にも多額の費用がかかるため、特に計画的な保全工事を進めるとともに、建替えや大規模改修時には、教育施設として適正な規模を確保しつつ、施設面積の縮小を目指します。</li><li>➤ 施設の老朽化を踏まえ、平成 29 年度末までに策定予定の『別府市教育施設長寿命化計画』において、就学前児童と小中学校の生徒を対象とする施設の一体化をはかるとともに、適正な規模と地域コミュニティの核となる施設を目指し、近隣施設との複合化及び安全性の確保など管理運営上の工夫も考慮した建替え計画を検討します。</li></ul>

### 3-27-2 現状分析

#### ① 施設の概要

平成 22 年 2 月に別府市学校適正化委員会より出された『別府市学校適正化にむけての答申』にもとづき、児童数減が顕著となっている学校については統廃合を進めてきました。

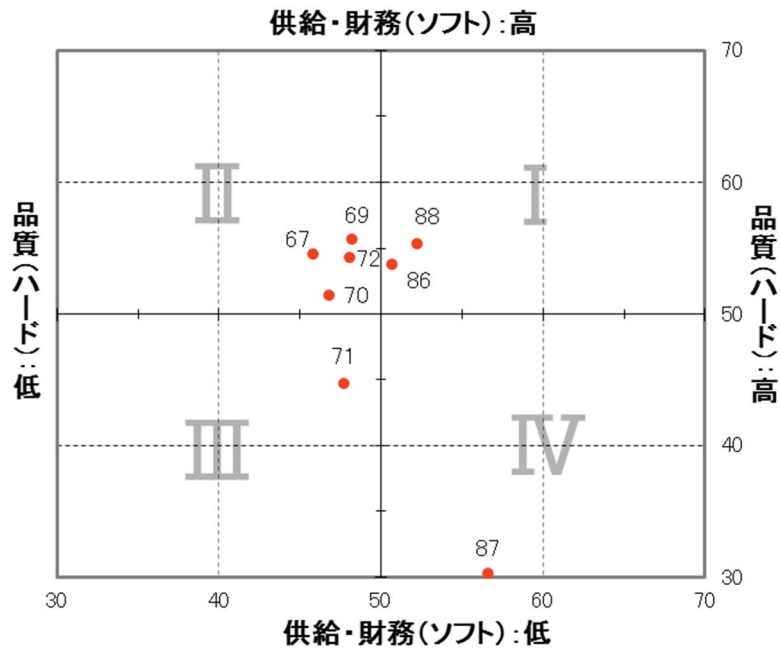
平成 33 年に山の手・浜脇中学校の統廃合を終えると、現在の統廃合の計画は完了します。現時点では、今後の校区編成等の見直し予定はありません。

#### ② ポートフォリオ分析結果

中学校は 8 施設ありますが、品質状況については、築年数は最も新しい東山中学校が 18.0 年、最も古い山の手中学校が 51.8 年であり、施設間によりばらつきがみられます。しかし、耐震化対応については浜脇中学校を除き、ほぼ全棟で実施されています。

供給状況については、生徒 1 人あたり面積により評価しますが、概ね 10～20 ㎡/人であるのに対して、浜脇中学校は 32.0 ㎡/人であり、余裕がある使われ方がされています。

財務状況については、面積あたり市負担額、生徒 1 人あたり市負担額により評価しますが、東山中学校は両指標ともに金額が高いため、偏差値が低く算出されています。



台帳番号	施設名称	占有面積 (㎡)	品質				平均偏差値 (ハード)	供給		財務				平均偏差値 (ソフト)	判定結果
			築年数 (年)	偏差値	耐震対応率(%)	偏差値		生徒1人あたり面積 (㎡/人)	偏差値	面積あたり市負担額 (千円/㎡)	偏差値	生徒1人あたり市負担額 (千円・日/人)	偏差値		
67	山の手中学校	5,247.9	50.8	37.8	94.3	53.9	45.9	15.1	54.1	3.1	54.9	47.6	54.7	54.6	II
69	朝日中学校	5,336.2	43.4	42.2	95.5	54.2	48.2	10.7	61.3	6.3	51.8	66.6	53.9	55.6	II
70	青山中学校	7,563.6	49.0	38.9	97.8	54.8	46.8	16.8	51.5	7.0	51.1	117.9	51.6	51.4	II
71	浜脇中学校	5,094.5	37.1	46.0	77.0	49.5	47.7	32.0	26.8	3.2	54.8	101.1	52.4	44.7	III
72	北部中学校	5,332.3	45.3	41.1	99.3	55.2	48.1	14.2	55.6	4.6	53.4	65.9	53.9	54.3	II
86	中部中学校	6,823.2	36.7	46.2	99.2	55.1	50.7	17.1	51.0	2.6	55.4	44.6	54.9	53.8	I
87	東山中学校	245.4	17.0	57.9	100.0	55.3	56.6	21.8	43.3	34.6	23.8	747.2	23.7	30.3	IV
88	鶴見台中学校	6,319.1	31.8	49.1	100.0	55.3	52.2	13.8	56.3	3.2	54.8	43.5	54.9	55.4	I

※文部科学省耐震化推進計画対象建物『2階建て以上または延床面積 200 ㎡超の非木造建物』または『3階建て以上又は延べ床面積 500 ㎡超の木造建物』以外の建物は耐震性未確認となっています。

図 72 ポートフォリオ分析 (中学校)

### ③ 老朽化の状況

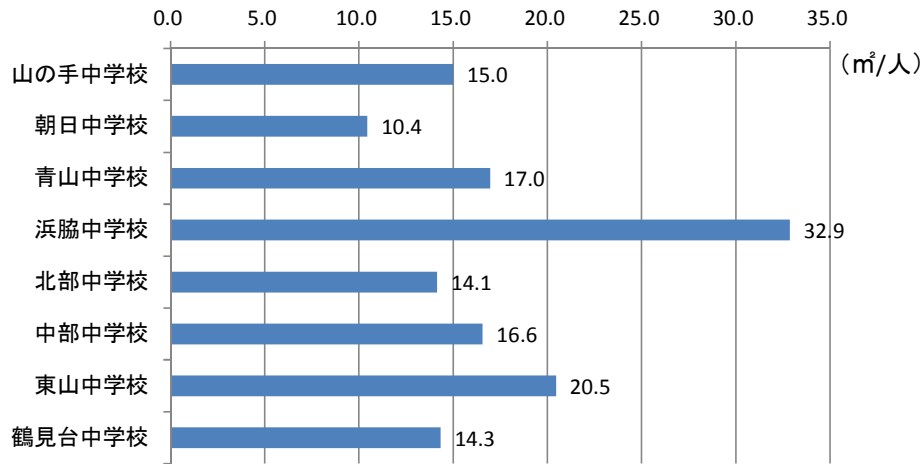
文部科学省耐震化推進計画により、対象施設の耐震化は完了していますが、昭和 40 年代から 50 年代にかけて整備された施設が多く、築 40 年以上を経過している施設が半数以上、そのうち築 50 年以上経過した施設は 7 棟あり、老朽化が進んでいます。

青山中学校の教室棟は、築 60 年以上が経過しています。

### ④ 利用状況

#### (i) 生徒1人あたり面積

生徒 1 人あたり面積は、浜脇中学校が 32.9 ㎡と高く、その他一部の学校では 20 ㎡を超えています。このような学校は未利用スペースが多くある可能性が高いといえ、規模縮小や統廃合の可能性、あるいは未利用スペースを活用した複合化を検討する必要があります。



※平成 26 年度実績に基づいて作成

図 73 各施設の生徒 1 人あたり面積

### (ii) 生徒数の推移

少子化に伴い、生徒数は減少傾向にあり、昭和 54 年には 5,384 人だった市立中学校に通う生徒数は、平成 18 年は 2,954 人、平成 27 年には 2,678 人となり、10 年間でも 9%、昭和 54 年当時と比較すると 50%以上、減少しています。

別府市人口ビジョンによれば、今後 30 年間で年少人口は 23%減少するので、生徒数も同率で、減少すると予測されます。

### 小学校児童数・中学校生徒数推移 (S44~H27)

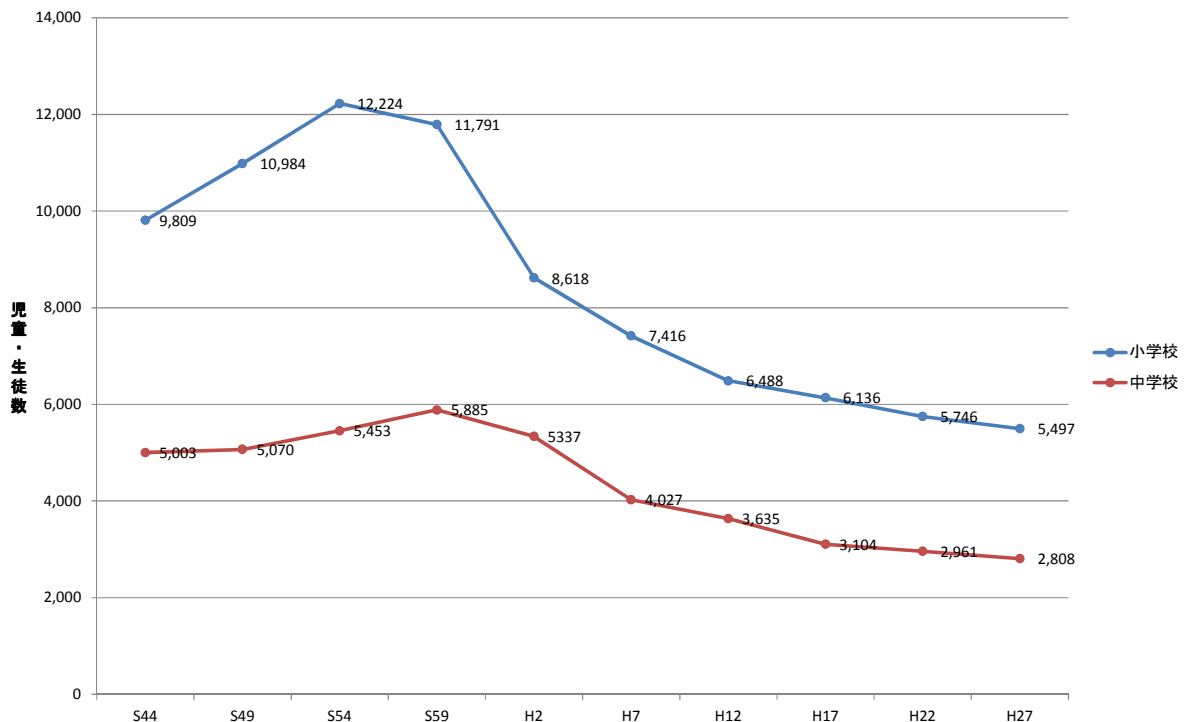


図 74 児童数の推移